

小学校の統廃合計画に不満次々 学校施設整備基本計画（案）



教育委員会は「稲沢市学校施設整備計画（案）」（現在パブリックコメントを実施している）の説明会を稲沢市民センターなど7カ所で行いました。

同計画案は、児童数の減少や校舎の老朽化をうけ、小学校の統廃合等を行うものです。中学校は対象外です。

計画は第1期と第2期（それぞれ10年間）に分けて実施するとしています。

第1期として祖父江町内の6小学校を2校もしくは1校にする、平和町内の3小学校を1校にする、千代田地区の坂田小学校を廃校にするとしています（左表の通り）。

第1期計画で小学校が統廃合される予定の地区を中心に、計画案に対する不満の声が次々

出されました。

小規模の良さを生かした教育を

同計画案は、小規模校の良さをはじめに例示しているにもかかわらず、小規模校を否定し、標準規模校にするとしています。

説明会に出席した人から小規模校の良さを生かした教育が重要ではないかとの意見が出されました。

稲沢市では4月からすべての小学校で35人以下学級になります。しかし35人以下でも多すぎます。さらに少人数の学級をめざすべきです。

学校統廃合は少人数学級に反します。

地区	小学校	計画
祖父江町	祖父江小	2校もしくは1校
	山崎小	
	領内小	
	丸甲小	
	牧川小	
	長岡小	
平和町	法立小	1校
	六輪小	
	三宅小	
千代田地区	千代田小	坂田小を廃校
	坂田小	

小規模校…すべての学年が1学級（単学級）の小学校
標準規模校…12学級（各学年2学級以上）から24学級（小学校の場合）

（稲沢市義務教育と学校のあるべき姿）より。標準規模校が優れている教育学的根拠はどこにもありません。

統廃合で通学距離は長くなる

小学校を統廃合すると、通学距離は長くなります。教育委員会が行ったアンケートでも、通学の許容時間を30分までと答えています（回答者の90%）。

同計画は通学距離が2・5kmを超える場合「スクールバスなどの通学支援を実施」するとしています。

ところが同計画策定委員会で「スクールバスは（市の財政）負担が大きい」と、スクールバスを走らせることができなくなるのか疑問の声が出されています。

「学校がなくなる？」で人口減少が加速

祖父江生涯学習センターでの説明会で「祖父江は合併してから人口が減少している。

（市長は）子育て教育は稲沢で！とっている。活性化をどこまで検討したのか」「子どもの意見を聞いていない」など厳しい意見が出されました。

教育費削減に主眼

国は「小規模校：存続」を認める一方、「小規模化に伴い：課題の解消を図っていくことが喫緊の課題」だとしています（文科省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」より）。結局国のねらいは学校を統廃合し、人件費を削減することです。

いま求められているのは少人数学級などこどもを大切に

パブコメ」は9日まで

「稲沢市学校施設整備基本計画（案）」に対するパブリックコメント（意見）は2月9日までです。計画案は市役所、支所、市民センターで、また市のホームページ「パブリックコメント」からも見ることができます。

裏面もご覧ください。